

ズグロカモメ *Larus saundersi* (Swinhoe)

【選定理由】

東アジアだけに分布する数の少ないカモメで、繁殖地・越冬地共に分布の狭い国際的希少種である。県内では伊勢湾・三河湾の干潟で毎年少数が越冬するが、近年、越冬期である12月～2月に生息が確認できる場所は尾張地域の庄内川河口周辺と、東三河地域の汐川河口周辺のみである。西三河地域の境川河口や矢作川河口、矢作古川河口などでは、近年この種の越冬がなくなっている。

【形態】

全長約29～32cm、翼開長87～91cm。夏羽は、頭部が黒く眼の周りに白い縁どりがあり冬羽では頭部が白く頬と頭頂に黒い斑がある。足は黒味を帯びた赤色で、嘴は黒くユリカモメに比べて太く短い。静止時は、成鳥の場合、翼先端が白と黒の斑状に見える。幼鳥は、成鳥冬羽に似るが、三列風切などに茶褐色味があり、翼先端は白と黒の斑状に見えない。飛翔時は、翼下面（外側初列風切）の黒斑がよく目立つ。



愛知県西尾市, 2002年1月6日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

主に伊勢湾北部と三河湾沿岸の干潟に、少数が飛来して越冬する。

【国内の分布】

主要な越冬地は有明海、八代海、周防灘の干潟があげられる。それら以外にも、局地的に関東から以西の干潟で越冬するが、数は少ない。

【世界の分布】

中国の渤海沿岸と黄海沿岸で繁殖し（韓国北西部でも営巣の記録がある。）、冬期は、中国西南部、台湾、韓国、日本の南西部で越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

県内では冬鳥として干潟に生息し、干潟の上空をフワフワと飛び廻りながら反転や急降下を繰り返して、カニ類を捕食する姿をみる事が多い。群れではなく、単独で採餌を行う。

【現在の生息状況／減少の要因】

全国的には僅かな増加傾向にあり、愛知県では1980年代から定期的に飛来して越冬するようになった。以前は汐川干潟、庄内川河口・藤前干潟、飛島干潟で各々数羽から10羽程が越冬し、矢作川河口、豊川河口、伊川津などの干潟でも年により1羽から数羽が越冬していたが、近年越冬しているのは2箇所のみで、庄内川河口周辺に20羽前後、汐川干潟周辺に5羽前後と思われる。近年県内の河口や干潟の見目は綺麗になっているが、干潟の生き物は減少傾向がみられる。

【保全上の留意点】

近年、河川から流入する栄養塩類等が減少しており、餌となるカニ類が減少している。試験的に、終末処理場から排出される窒素やリンについて、上限値だけでなく下限値も定めた管理運転が実施され始めたが、さらに研究が進められることで、豊かな海や干潟が復活することが望まれる。

【特記事項】

環境省シギ・チドリ類調査では、国内でシギ・チドリ類と同じ環境に生息する本種のカウントを実施している。各年1月の冬期一斉調査日の記録では2013年1,970羽、2014年2,338羽、2015年2,454羽、2016年1,619羽、2017年2,387羽、2018年2,390羽と、全国では増加傾向がみられるが、近年県内の生息総数に増加傾向はみられない。

(高橋伸夫)